

# 産業別四半期見通し調査結果 (2018年4-6月期見通し)

## ■ 県内産業天気図

### ◇ 2018年1-3月期の現況

▶ 全17業種中、「晴れ（好調）」が5業種、「薄日（順調）」が4業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が1業種となった。

### ◇ 2018年4-6月期の見通し

▶ 見通しも、「晴れ（好調）」が5業種、「薄日（順調）」が4業種、「曇り（普通）」が7業種、「小雨（低調）」が1業種となった。方向感では、「やや上昇」が1業種、「横ばい」が16業種となっている。

天気図記号	2017年 10-12月期現況	2018年 1-3月期現況	2018年 4-6月期見通し
 晴れ（好調）	5 業種	5 業種	5 業種
 薄日（順調）	4 業種	4 業種	4 業種
 曇り（普通）	7 業種	7 業種	7 業種
 小雨（低調）	1 業種	1 業種	1 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

## ■ 4-6月期見通しのポイント




















































- ▶ 製造業では、国内外の設備投資需要の増加に伴い「工作機械」「半導体製造装置」「産業用機器」「電子部品・デバイス」「光学・計器」の5業種が「晴れ」を維持する見通し。また「自動車部品」「プラスチック製品」の2業種が「薄日（順調）」を維持する見込み。
- ▶ 非製造業は、「大型小売」は「小雨（低調）」が続くとみられる。一方「民間工事」は「曇り（普通）」であるが、業況が好調な機械や半導体関連をはじめとする製造業の工場建設がけん引し「やや上昇」の見通し。

照 会 先  
一般財団法人 長野経済研究所  
調査部（担当：桑井、久保田）  
TEL：026-224-0501



# <産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


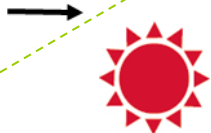
■調査期間：2018年3月中旬～4月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の137社

業 種	前期 (10-12月期)	今期 (1-3月期)	来期 (4-6月期)	
工 作 機 械			→	
半 導 体 製 造 装 置			→	
産 業 用 機 器			→	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造			→	
食 料 品 製 造			→	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			→	
自 動 車 販 売			→	
公 共 工 事			→	
民 間 工 事			↗	
旅 客			→	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			→	


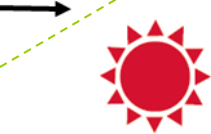
# 当研究所の注目業種

	4-6月期見通し
<p>工作機械</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 国内は、自動車関連業種を中心に、半導体関連や医療関連など幅広い業種で機械需要は高水準を維持する見込み。</li><li>▶ 海外も、北米向けは自動車関連で日系メーカーを中心に需要は堅調な見通し。アジア向けは、中国で自動化投資が継続するほか高性能な日本製へのニーズが高まっており、自動車関連・IT関連を中心に需要は好調な見通し。</li><li>▶ 一方、リニアガイド（位置決め装置）等工作機械の基幹部品が調達困難な状況の解消は当面見込みにくい。そのため、受注を制限する動きが出てくる懸念もある。</li></ul>
<p>民間工事</p> 	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 民間企業の建設投資は、業況が好調な機械や半導体関連のほか、食品製造の工場新設など、製造業が全体をけん引していくとみられる。</li><li>▶ 新設住宅は、低価格商品を中心に持家需要が続く見通しであるほか、分譲マンションの建築も予定されていることから、底堅い推移が見込まれる。</li><li>▶ 2019年10月に予定されている消費増税を見据え、住宅展示場の来場も増え始めるとみられるが、具体的に契約や着工などが増加するのはまだ先となる見通し。</li></ul>


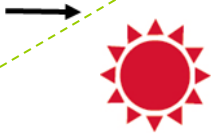
## 工作機械 : 自動車関連向けを中心に需要は高水準を維持

現況	国内は、自動車関連で投資意欲が増し需要が増加したほか、半導体関連や医療関連など幅広い業種で機械需要は好調に推移した。また、政府の投資促進策もあり引き合いが増加した。
	海外は、北米や欧州向けは自動車関連の日系メーカーの需要が堅調であった。アジア向けは、中国で自動化投資が広がるなど多くの業種で好調であった。東南アジア向けは、タイやインドネシアで自動車関連を中心に堅調に推移した。一方、工作機械の基幹部品であるリニアガイド（位置決め装置）等の不足感が増し、納期の長期化もみられた。
見通し	国内は、自動車関連業種の好調を背景に機械需要は高水準を維持する見込み。海外は、北米向けは堅調な見通しであり、欧州向けも全体として安定した推移が見込まれる。アジア向けは、中国で自動化投資が継続するほか高性能な日本製へのニーズが高まっており、自動車関連・IT関連を中心に需要は好調な見通し。東南アジア向けは堅調な需要が続く見込み。基幹部品が調達困難な状況の解消は見込みにくく、受注量を制限する懸念もある。
	


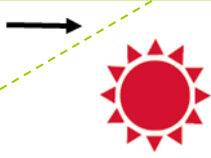
## 半導体製造装置 : 海外向けで需要の高まりが続く

現況	国内は、車載用電子制御装置向けのパワー半導体などの生産ラインを中心に、製造装置を増強する動きに広がりが見られた。海外は、国策による半導体生産への投資が続く中国で、データセンター用サーバー向けのメモリーやIoT向けのセンサーの需要が高まり、装置受注の伸びをけん引した。韓国や台湾もスマートフォン向けなどの半導体製造が好調で、設備ニーズが高まった。業界全体として半導体製造装置の需要の高まりを受けて各社とも工場の高稼働を維持しているが、人手不足や部品の調達難により生産に遅れが生じる企業もあった。
	
見通し	国内は、車載用のパワー半導体の生産ラインにおける設備投資が続き、製品の高度化や生産の効率化に対応する装置を中心に需要は堅調な見通し。海外は、半導体を国策で増産する中国で製造装置の需要が高まるとみられる。さらに、韓国・台湾でもスマートフォン向けなどの半導体製造が継続し、装置需要は好調を維持する見通し。今後、需要増加への対応として設備や人材面の強化を行うことに加え、不足する部品の使用を減らして製品仕様を設計段階から見直す動きなども広がるとみられる。
	


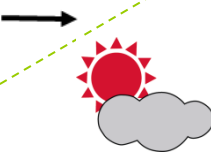
## 産業用機器 : FA機器は海外を中心に好調な需要動向を見込む

現況	産業用のFA機器は、国内は自動車関連の設備ニーズが高まり、工作機械や産業用ロボット向けなどを中心に順調に推移した。海外は、中国・韓国・台湾などで半導体やフラットパネル用の製造装置に対する投資が旺盛で、関連機器も好調だった。車載関連機器は、国内は新型車向けなどの需要が堅調で、海外は米国向けで底堅い受注が見られた。水冷装置や空調機器などは、省エネを目的とした設備の更新ニーズから受注は安定していた。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器更新などの需要が下支えとなった。
	
見通し	FA機器は、国内は自動車関連の工作機械や産業用ロボット向けなどで順調な受注が見込まれる。海外は、中国・韓国・台湾などにおいて、半導体やフラットパネル等の製造装置向けを中心に好調な需要動向となる見通し。車載関連機器は、国内は新型車向けなどで堅調な推移が見込まれ、海外は米国向けの需要が継続するとみられる。水冷装置や空調機器は省エネに向けた更新ニーズが続くとみられ、住設機器も設備のリフォームなどにより一定の受注水準が見込まれる。
	


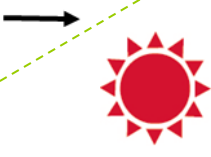
## 電子部品・デバイス：自動車向け、半導体関連を中心に高水準が続く

<p>現況</p>	<p>自動車向けは、国内・海外ともに安定した完成車需要に支えられ、緊急自動ブレーキなど安全運転支援を目的とする車載用電子部品の受注が好調だった。スマートフォン向けは、人気機種の子部品生産が減少したが、価格が手頃な機種の生産水準が高まり受注を下支えした。また、産業用機械などの製造装置に組み込まれる半導体やメモリーに付随する電子部品も高い受注水準を維持するなど、全体として好調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは、自動ブレーキなど安全運転支援を目的として搭載される電子部品は好調が続くとみられる。スマートフォン向けは、新しいモデルの部品量産が期後半に始まる見込みであるが、前年よりはやや減少する見通し。産業用機械などの製造装置に組み込まれる部品は世界的な半導体需要に支えられ高い受注水準が続くとみられる。業界全体として好調を維持する見通し。</p>
	


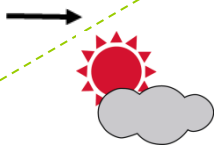
## 自動車部品：国内外とも堅調に推移する見通し

<p>現況</p>	<p>国内は、17年度の新車販売台数が2年連続で500万台を超えるなど、新型車効果等に伴う需要拡大がみられ、年度末にかけても部品受注は堅調だった。海外は、北米向けは、米国の完成車需要に一服感がみられているものの、受注動向は底堅かった。東南アジア向けは、買い替え需要が拡大しているタイなどを中心に受注は増加した。中国向けは、小型車の取得に対する減税策の撤廃により全体の販売台数の伸びは鈍化したものの、日系メーカーへの受注は底堅く、需要動向は堅調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、新型車向けを中心に部品受注が引き続き堅調に推移する見込み。特に軽自動車向けは、新型車効果などから受注を伸ばす見通し。海外は、北米向けで、安定した部品需要が続くとみられる。東南アジア向けは、買い替え需要の拡大から引き続き受注の増加を見込む。中国向けは、日系メーカーへの需要は安定しており、堅調な受注を維持するとみられる。全体として、世界的な資源需要の拡大に伴うアルミや銅などの原材料価格上昇による調達コストの増加や、想定レートを上回る円高進行が懸念材料となる。</p>
	


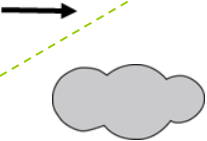
## 光学・計器：半導体製造装置向けを中心に受注は順調

<p>現況</p>	<p>光学機器関連は、半導体製造装置などに搭載される産業用の光学機器が好調だった。また、海外で販売される事業者用プロジェクター向けのレンズユニットや、自動車向けで新型車に搭載されるLEDヘッドランプなどが順調だった。一方、スマートフォン向けは、やや減少した。計器関連は、中国・台湾など海外を中心に建機向けや半導体製造装置向けの受注が好調だった。ガスメーターも、国内は交換サイクルにあたり順調だったほか、海外はインフラ整備の関連で受注が増加した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連は、半導体製造装置向けなど産業用で好調を維持する見通し。プロジェクターのレンズユニットは、高輝度の製品を中心に需要は堅調で前期並みの受注水準は維持するとみられる。また自動車向けは、新型車のLEDヘッドランプなどを中心に安定的な受注が見込まれる。スマートフォン向けは、生産が落ち着く時期であるが前年の水準は維持する見通し。計器関連は、半導体製造装置向けを中心に受注は順調に推移するとみられるほか、ガスメーターは、海外で緩やかな受注の増加が見込まれる。</p>
	


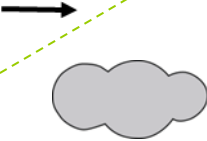
## プラスチック製品 : 自動車関連部品や化粧品容器が順調

<p>現況</p>	<p>自動車関連は、国内外ともに完成車需要が安定しており、部品の受注は好調に推移した。スマートフォン関連は、昨年販売を開始した新製品の生産はピークを過ぎたが、価格が手ごろで高機能な機種需要が高まり、部品受注を下支えした。容器類は、EC (Electronic Commerce/電子商取引) の広がりもあり、外国人に人気の高い国内メーカーの化粧品向けで、受注は順調だった。OA・情報機器は、業務の効率化につながる複合機の部品などが底堅く推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車関連は、海外は安定した完成車需要に支えられ、国内は新型車効果もあり、人気車種を中心に部品受注が増加する見通し。スマートフォン関連は、次の新製品に向けた部品生産が、前年よりは緩やかであるが段階的に増加していくとみられる。容器類は、化粧品向けの需要が高い水準を維持する見通し。OA・情報機器は、複合機などの部品が底堅く推移する見込み。</p>
	


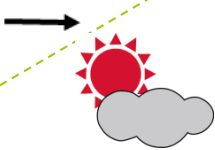
## 飲料製造 : 総じて安定的な需要を見込む

<p>現況</p>	<p>清涼飲料水は、ミネラルウォーターや茶系飲料に加え冬期のホット飲料も需要は堅調で、総じて例年並みの生産水準となった。果汁・野菜飲料は、リンゴやトマトなどの原料不足の影響が続き、生産量は例年と比べ低調だった。清酒は、普通酒の落ち込みがみられる中、特定名称酒や発泡性のあるスパークリング酒の需要が下支えとなった。ワインは、国産原料を用いた日本ワインへの引き合いが高まり、人気銘柄を中心に需要を確保した。飲料業界全体として、運賃の上昇傾向が顕著にみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料水は、ミネラルウォーターや茶系飲料の堅調な需要が見込まれ、総じて例年並みの生産量を確保する見通し。果汁・野菜飲料は、原料不足の影響による生産調整が一部で見込まれ、生産量は弱含むとみられる。清酒は需要が落ち着く時期を迎える中、特定名称酒に加えて生酒・冷酒などの季節商品を中心に需要の喚起を図る。ワインは日本ワインの人気から堅調な需要を見込む。飲料業界全体では、各種コストの増加に対する商品価格の見直しの動きは一部にとどまる見通し。</p>
	


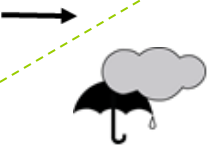
## 食料品製造 : 健康関連商品を中心に販売は堅調に推移

<p>現況</p>	<p>味噌は、即席などの商品が堅調だった。原料米価格の高止まりから、商品のリニューアルなどで収益を改善する動きが一部でみられた。製粉は、そば粉の原料である玄そばの仕入れ価格が前年を下回って推移し、収益環境が改善した。また、消費者の健康意識の高まりを背景に、加工肉や大豆関連商品、乾燥食品は、健康や安全性などで付加価値の高い商品が販売を伸ばした。一方、野菜の高騰に伴い、コンビニ向け惣菜などは、原材料価格が上昇し収益環境が悪化した。全体として、人手不足に伴う人件費や物流費などの増加が収益を圧迫した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、簡便さや健康を訴求した商品の需要が底堅いとみられるが、原料米価格の高止まりが続く見込み。製粉は、需要期を迎え販売量の増加が期待される。コンビニ向け惣菜は、野菜価格が落ち着くとみられ収益環境は改善する見通し。加工肉、大豆関連製品、乾燥食品は、健康をキーワードとした付加価値の高い商品などを中心に堅調に推移するとみられる。また、行楽シーズンに伴い、土産物などの需要拡大も期待される。</p>
	


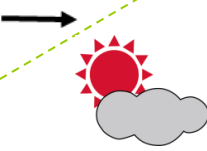
## 機械器具卸 : 設備投資の増加に伴い機械需要は順調に推移

<p>現 況</p>	<p>機械設備の需要は、自動車関連などを中心とした設備投資の増加により順調に推移した。省力化ニーズは高く、政府の投資促進策もあり引き合いは増加した。一方、一部の機械では納期が長期化し、売り上げが翌期にずれ込む企業もみられた。生産用機械に取り付ける切削用工具類等の消耗品の受注は、製造業全体で生産活動が高水準で推移したことから順調だった。配線機器や分電盤などの電設資材の需要は、民間工事では製造業を中心に拠点整備の案件があったものの、公共工事での大型案件が少なく、全体では低調であった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>自動車関連メーカーを中心に、機械設備の需要は引き続き順調に推移する見込み。投資促進策により設備投資の動きが一層活発化することも期待される。一部機械における納期長期化の解消は見通しにくい、売り上げ減少の懸念は少ない。工具類などの消耗品の需要は、製造業の生産活動が引き続き活発なことが予想され順調な見通し。電設資材は、製造業で拠点整備など設備投資の予定もみられることから取扱量は横ばいで推移する見込み。</p>
	


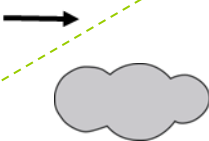
## 大型小売 : 季節商品に期待するも、衣料品は苦戦が続く見通し

<p>現 況</p>	<p>百貨店は、物産展などの催事が順調だったほか、化粧品などの雑貨も堅調に推移した。一方、主力の衣料品は、冬物衣料の売り上げが伸び悩んだほか、天候不順から春物衣料の出足が鈍るなど、総じて振るわない状況が続いた。スーパーは、野菜の相場高などもあり生鮮食品を中心に堅調だったほか、総菜などの売り上げが増加した。しかし、消費者の低価格志向と価格競争から、収益への寄与は限定的となった。また、人手不足に伴い一層の人件費の増加がみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>百貨店は、化粧品などの雑貨は堅調な推移が見込まれるほか、食料品は物産展などの催事による売り上げ増加が期待される。衣料品は、出遅れていた春物商戦を本格的に展開していくとみられるが、消費者の慎重な姿勢もあり、売り上げは前年を下回る見通し。スーパーは、生鮮食品など生活必需品に対する需要は底堅いほか、行楽関連などを含め季節商品の売り上げ増加が期待される。一方、消費者の低価格志向は続くとみられ、価格競争は激しさを増すことが懸念される。</p>
	


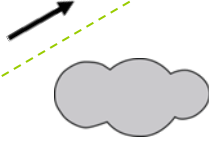
## 自動車販売 : 安全・環境性能に対する需要が新車販売をけん引

<p>現 況</p>	<p>モデルチェンジに伴う新型車や自動ブレーキなど安全性能の高い車への需要が強く、車種では特に軽自動車の販売が目立った。ただ、これまで販売をけん引してきたSUV等の売れ筋車種で一服感がみられたほか、一部で残る無資格検査問題の影響などから、全体の軽自動車販売台数は前年をやや下回った。中古車は、下取り車の確保が進み、売り上げは堅調だった。輸入車は、低価格帯など幅広い車種を揃えることで需要を喚起し、販売を伸ばした。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>軽自動車を中心に新型車効果が続き、販売台数を伸ばすとみられる。また、安全性能や環境性能に対する消費者の需要は強く、新車販売をけん引する見通し。若者を中心に底堅い需要のあるSUV等も売り上げを維持する見込みで、全体の販売量は堅調に推移するとみられる。中古車は、底堅い販売量を維持する見込み。輸入車は、取り扱う車種の増加に伴い幅広い年齢層で需要の拡大が続く見通し。</p>
	


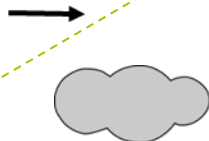
## 公共工事 : 補正予算・新年度予算工事の早期発注に期待

<p>現況</p>	<p>国ではトンネルや橋梁等のインフラ整備工事、県では災害復旧工事など比較的規模の大きな工事が発注され、市町村でも運動施設などの大型工事がみられたが、全体的に工事量は前年を下回った。首都圏での再開発や東京五輪関連の工事活発化により、人手不足が厳しさを増したことで、入札を見送るなど新規受注を逃す事業者もいた。また、鋼材などの資材価格や労務費が上昇したことにより、事業者の入札価格が発注者の予定価格を超過するなど入札不成立を招く例もあった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>補正予算や新年度予算による工事の早期発注に期待がかかるが、大型工事が集中した前年に比べ当期は弱含むとみられる。国や独立行政法人等ではインフラ整備工事が、県では防災・減災関連の工事が見込まれるほか、市町村では複合施設などの工事が予定されている。</p>
	<p>4月からは、県が発注する全ての工事において受注者が週休二日の実施を希望する場合には、それに応じた工期の延長が行われるなど、業界の労働環境改善に向けた新たな取り組みが始まる。今後の受注者の週休二日への取り組み状況が注目される。</p>

## 民間工事 : 製造業を中心とした建設投資が見込まれる


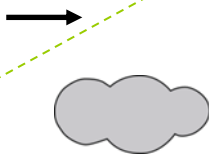
<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、非製造業が力強さを欠いたものの、食品や自動車関連など工場案件の多かった製造業が全体を下支えした。新設住宅は、低価格商品を中心とした持家や、相続税の節税策による貸家の需要が底堅かったが、マンションなどの分譲は伸び悩み、全体では前期を下回った。首都圏での再開発や東京五輪関連の工事活発化により、鋼材など一部の資材価格や労務費が高騰し、収益環境は厳しさを増した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、業況が好調な機械や半導体関連で大型案件が予定されているほか、食品製造の工場新設など、製造業が全体をけん引していくとみられる。新設住宅は、低価格商品の持家需要が続く見通しであるほか、分譲マンションの建築も予定されていることから、底堅い推移が見込まれる。住宅は、2019年10月に予定されている消費増税を見据え、住宅展示場の来場者が増え始めるとみられるが、具体的に契約や着工などが増加するのはまだ先となる見通し。</p>
	

## 旅客 : 春の行楽シーズンながらドライバー不足は解消せず


<p>現況</p>	<p>貸切バスは、スキー関連を中心として堅調だった。高速バスは、ビジネス利用、観光利用、学生の帰省等による利用ともに例年並みだった。スキー場へ向かうバスは外国人旅行客の利用が多く好調であった。タクシーは、新年会、送別会等による夜間利用は盛り上がりには欠けたものの、全体としてはほぼ例年並みであった。鉄道は前年並みの利用者数を確保し、中でもイベント列車は好調だった。軽油やLPガスの価格が上昇するなど、各社の収益状況はわずかながら悪化した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>大型集客イベントは少ないものの、春の行楽シーズンを迎え、貸切バスは観光利用が堅調に推移する見通し。高速バスはGW時の帰省による利用およびビジネス利用ともに前年並みを見込む。タクシーは、夜間利用、昼間利用ともにほぼ横ばいとなる見通し。鉄道は前年並みの利用者数が見込まれ、イベント列車などの観光関連で収益を確保していく。バス・タクシー業界全体で、ドライバー不足は解消せず、人材確保のための賃上げ等待遇改善に向けた取り組みが進むとみられる。</p>
	



## 貨物 : 自動車・建機部品を中心に引き続き堅調な動き

<p>現 況</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移した。荷種別では自動車部品のほかに、設備投資に伴う工作機械や産業機器で堅調な動きがみられた。食料品は一部でやや減少したものの、全体的に大きな変化はなかった。大手運送業者の値上げの動きもあり、一部事業者では適正運賃確保に向けた価格交渉に進展がみられた。一方で、燃料価格や庸車代、人件費の上昇により収益は圧迫された。新卒採用ができた事業者もあったが、資格の取得年齢制限もあり、大型トラック運転手不足の解消には至らなかった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移する見通しであるが、輸送能力の限界から受注量が制限される懸念がある。自動車部品や工作機械、産業機器を中心に製造業では引き続き堅調な動きが予想される。従業員の待遇改善のための賃上げ等により人件費は上昇する見通し。また、庸車代は高止まりが予想されることから、収益環境は厳しさを増すとみられる。適正運賃の確保については、荷主との価格交渉の継続により、進展が見込まれる。</p>
	

## ホテル・旅館 : 日並びの良い大型連休を中心に堅調な利用が見込まれる

<p>現 況</p>	<p>観光客による利用は、全体として堅調に推移した。スキー場周辺では、期間を通じて積雪量を確保できたことで利用を伸ばした地域もあったが、都市部を中心とした地域では例年並みとなった。スキーや観光を目的とする外国人観光客は、オーストラリアやアジア諸国からの利用が順調であった。ビジネス客の利用は、都市部のホテルを中心に安定して推移し、平日の稼働率低下を下支えした。食材の仕入価格や燃料価格などの上昇による収益面への影響を抑えるため、宿泊プランや料理のメニューを工夫する事業者もみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>観光客による宿泊利用は、日並びの良い大型連休を中心に、都市部・観光地ともに堅調な利用が見込まれる。外国人観光客は、アジア諸国を中心に順調な利用が期待される。ビジネス客の利用は、活発な企業活動を背景に、引き続き安定して推移する見通し。ブライダルは人気シーズンを迎え、例年並みの件数を確保する見込み。競争力を高めるため客室等の改装を行い、客室単価の改善を目指す動きもみられる。</p>
